



三洋半導体 ニュース

No. 961
3022

STK2250

厚膜混成集積回路
2チャンネル 50W min AF パワーアンプ出力段(D.P.P.)
エミッタ抵抗内蔵

習定規格

- 特長
- ・2チャンネル分が1パッケージに入っている。
 - ・D.P.P. 1000シリーズ他において実績のある金属抵抗による出力直列抵抗内蔵
 - ・抵抗の許容電力は4W以上ありあらゆる負荷に対応可。
 - ・ピーク許容電流は18A以上あり負荷短絡等の異常時にも対応可。
 - ・出力直列抵抗の内蔵は各種安全規格に対処できまたプリント基板パターン設計が容易となる。
 - ・エミッタ抵抗をゼロとすることによりスイッチングひずみの低減が図れる。また負荷短絡に対しては出力直列抵抗 R_o を内蔵することにより十分な強度が得られるとともに保護回路検出用抵抗としても使用できる。
 - ・前段の電圧増幅アンプ(V Amp)に STK3042II (または STK3062II) を用いることによりひずみ率 0.01% max が確保できる。また2チャンネルの電源ピンがそれぞれ独立しているため相互干渉が少なく低ひずみ率が図れる。
 - ・最大電源電圧(最大定格)は従来品に比べ大幅に改善されている。これにより電源トランスのレギュレーション余裕度が増しコストダウンが望める。

最大定格 / $T_a = 25^\circ\text{C}$		unit	
最大電源電圧	$V_{CC \text{ max}}$	± 59	V
熱抵抗	θ_{j-c} 理想放熱状態	1.8	$^\circ\text{C}/\text{W}$
コレクタ電流	I_C	5	A
接合部温度	T_j	150	$^\circ\text{C}$
保存周囲温度	T_{stg}	$-30 \sim +105$	$^\circ\text{C}$
負荷短絡許容時間	t_s $V_{CC} = \pm 37\text{V}, \ast f = 50\text{Hz}, R_L = 8\Omega, P_o = 50\text{W}$	2	sec

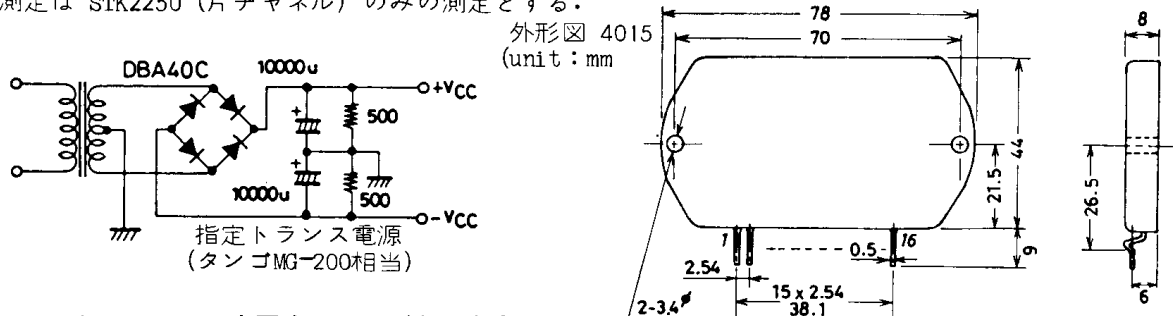
推奨動作条件 / $T_a = 25^\circ\text{C}$		unit	
推奨電源電圧	V_{CC}	± 37	V
負荷抵抗	R_L	8	Ω

動作特性 / $T_a = 25^\circ\text{C}, V_{CC} = \pm 37\text{V}, R_L = 8\Omega, R_g = 600\Omega, V_G = 26.3\text{dB}$, 指定測定回路(応用回路例に準ずる)において。

			min	typ	max	unit
無信号電流 $\ast\ast$	I_{CCO}	$V_{CC} = \pm 43\text{V}$	15	35	80	mA
出力電力	P_o	THD = 0.01%, $f = 20\text{Hz} \sim 20\text{kHz}$	50			W
全高調波ひずみ率	THD	$P_o = 1 \sim 50\text{W}, f = 20\text{Hz} \sim 20\text{kHz}$			0.01	%
出力抵抗	R_o		0.18	0.22	0.30	Ω

\ast : 負荷短絡許容時間は下図の指定トランス電源を使用する。

$\ast\ast$: 測定は STK2250 (片チャンネル) のみの測定とする。



* これらの仕様は、改良などのため変更することがあります。